

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

白鳥の雅楽



白鳥神社では元旦の歳旦祭を始め年間十二回程の神事を行います。その中で九月の例大祭の時に演奏致します。そこに浦安の舞も入れて、五穀豊穣、国家の安寧を祈願いたします。

うものに触れる機会も少ないので、ここでその概略を記してみます。

雅楽の歴史は、1400年程前、朝鮮・中国から伝わり、それを日本固有の音楽や舞と合わせて、日本流にアレンジして、平安時代に、日本の雅楽として完成させたと言われます。当時は朝廷に楽隊を編成して、神社仏閣の祝い事等に、演奏披露されました。

雅楽は、平安時代、宮中、貴族の間で育まれた古式ゆかしい音楽で、貴族の教養科目とされました。その後、朝廷から神社やお寺が引き継いで、近年は大事な

伝統文化と言う事で、それぞれの地域で、様々な人が受け継ぐようになってきました。

雅楽は世界最古のオーケストラと言われる。指揮者は居りません。奏者は阿吽の呼吸で演奏されます。

昭和三十年には国の重要無形文化財に指定され、平成二十一年にはユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、世界的にも高く評価されています。

白鳥町の雅楽は、明治35年(1902)(124年前)石徹白で始まり、北濃村に下りてきて、白鳥区では、大正4年(1915)(111年前)に來通寺の仏事で演じられております。昭和48年(1973)(53年前)に白鳥雅楽会が組織され、神社、寺院における儀式に奉仕すると言う精神で活動し、現在に至っております。演奏する楽器は笙(シヨウ)、箏(ヒチリキ)、龍笛(オウテキ)、大太鼓(ダイコ)、羯鼓(カッコ)、鉦鼓(シヨウコ)演奏する曲目は、越天楽(エテンラク)、音取(ネトリ)、抜頭(バトウ)、五常楽(ゴシヨウラク)、盤涉越天楽(ハンシキエテンラク)。越天楽(エテンラク)とは、雅楽の中で一番有名な曲で、主におめでたい時に演奏されます。ご存知、筑前民謡「黒田節」もこれが元になったとも言われます。

音取(ネトリ)とは、音楽を演奏する前に、楽器の音調を整える、短い一序奏。抜頭(バトウ)とは、唐の后が嫉妬して鬼になる。また父を猛獣に殺された子が獣を捜し求めて殺し、歓喜して舞う様ともいわれています。五常楽とは人の道の仁、義、礼、智、信を五つの音にあてはめて曲にしたもの。盤涉越天楽(ハンシキエテンラク)とは、越天楽より高音で奏でられる越天楽。以上が概略です。現在、演奏者は十二人。奏者募集中です。平安の雅に触れてみませんか！女性の方も大歓迎です。楽器、衣装はこちらで準備します。

歳旦祭

歳旦祭は元旦早朝に皇居を始め、全国の神社で行われます。「歳旦」という言葉の意味は「歳」は年、「旦」は「夜明け・はじまり」を表す漢字です。

つまり歳旦とは、「年のはじめの清らかな朝」を意味しています。一年の始まりに際し、神への感謝と報告とお願いをする祭事です。

*「旧年を無事に過ごせたこと」「新しい年の始まりを迎えられたこと」この報告することが歳旦祭の基本です。

* 国家安泰を祈念する。歳旦祭は私たち個人のためというより、まず 国の平和と安定を祈る祭りという点が特徴的です。今日本は平和ですが世界では理不尽な戦争が絶えません。

* 五穀豊穣を祈る。神道は農耕文化と強く結びついている。故に神事では農事改良組合代表は上席です。

*最後に地域の氏子の平安、家内安全、健康、商売繁盛など、みんなが幸せに暮らせる一年を願います。



子供のおみくじ

かなり前から孫達に言われていた。白鳥神社のおみくじは大人向けで子供には難しくて読めないし、意味も解らない。親に引いてもらい、解説してもらわないと理解が出来ないと言われ続けていた。今年子供用のくじを用意しました。対象は小学生以下と言う感じの内容です。今年のおみくじは大人用が約1200通、子供用が約200通、お求め頂きました。今年も昭和101年のスタートの年です。皆さんの幸福への願いは如何だったでしょうか？平和でありますように！



祈願祭・初午祭



三月八日、祈年祭と初午祭を同時に開催いたしました。本来は二つとも二月に行うのが通例ですが、雪深く、寒さの厳しい季節を避けて、十年前より、一か月ほど遅らせて同時開催しております。

二つとも、稲作文化に深くかかわりもあり、農作業の準備に入るのもこの地方としては、三月の方が良いのではありません、変更してまいりました。それでも当日は寒の戻りなのか、拝殿の中での神事は非常に寒い中でしたが、自治会の皆さんはじめ、農事改良組合、市会議員、商工会、神楽代表と総代衆合わせて四十名のご参加の元、厳粛に行われました。祈年祭は、五穀豊穣を祈願し、秋の新嘗祭は豊作感謝の祭りとして対になっております。現代における祈年祭の意味としては、食への意識、食への大切さへの再認識があります。食の安定が国家の基盤であります。日本の食料自給率が低い事も、考える大切な事だと思っております。

初午祭とは、八世紀の頃、伏見稲荷大社に稲荷神が二月の初午の日に降臨し、稲作文化を広めました。この日に五穀豊穣や家内安全を願う祭りとして今日に続いております。狐は稲荷神の使いであり、油揚げを好むという信仰から、神前に供えられます。戦国時代、豊臣秀吉の母が大病となり、秀吉は稲荷神社に祈願した所、快癒した事から、病氣回復としても信じられています。又、江戸時代、今の三井財閥が稲荷神を信仰し、隆盛したことから商売繁盛の神ともされております。白鳥では初午祭の日に米で作った初午団子を供えておりましたが、最近では米から作ら



れるお酒、それに稲荷寿司と致しました。こんな事を念頭にし、今年の五穀豊穣を祈願いたしました。

総代新陣容

この三月で社守の曾我幸男様、副総代長の野々村薫様、総代の曾我和弘様、三島繁様、松山幸盛様、須甲真司様、渡辺剛様、の七名が退任されました。ご在任中は、白鳥神社に対しまして、篤いご支援、ご協力を賜り誠に有難うございました。離任されましても当神社へのご高配を切にお願い申し上げます。四月からは左記の陣容で護持運営に当たります。変わらぬご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。(赤字は新任です)

一号組・・・原 雅彦 二号組・・・岩大路毅
 三号組・・・古家孝一 四号組・・・渡辺修司
 五号組・・・日置紀寛 六号組・・・金子和則
 七号組・・・森 博明 八号組・・・曾我敏弘
 九号組・・・寺田吉幸 十号組・・・細川幸彦
 十一号組・・・大澤嘉市 十二号組・・・三輪規裕
 十三号組・・・大矢栄一 十四号組・・・川崎 弘
 十八号組・・・西村政司 十九号組・・・藁島真一
 宮司・瀬上孝男、社守・野々村薫、補佐・川崎 弘
 総代長・古家孝一、副・大矢栄一、副・三輪規裕
 監査役・曾我 誠、内ヶ島朗、相談役・瀬木重彌
 何卒宜しくお願い致します。(敬称略)

曾我社守「勇退」

曾我幸男社守は、令和三年四月に、前社守・金子氏の跡を継いで、就任して頂きました。曾我氏は永年、大神楽の師匠として、後進を指導され、雅楽の奏者でもあり、副総代長をも務めて頂き、白鳥神社に関しては、



その全てを知り尽くしておられました。秋の新嘗祭には、その年の新米を神前に御奉納を頂いております。約五年に及びご奉仕を頂きましたが、この度、体力の限界を感じたので、身を引きたいとの申



し出で御座います。残念ではありますが、辞意をお受けする他ないかと、思うに至りました。尚、後任には、これまで、神楽、雅楽、副総代長を務められました、野々村薫氏が就任されます。前任者同様よろしくお願い申し上げます。

みんなの俳句・投稿・その四

- 「十月の 秋あったかと 雪虫とぶ」・・・田中ヒサ子
- 「雪踏みて 白鳥神社 初詣」・・・田中ヒサ子
- 「くるふみち 鯉も寒いか 姿なし」・・・田中 幸子
- 「彼岸花 きれいな赤に しゃがみ込む」田中 幸子
- 「盆が過ぎ 皆淋しき 百日紅」・・・日溜りジジ
- 「白鳥の 神木刻む 人類のとき」・・・詠み人知らず
- 「初春の 雪踏みしめて 宮参り」・・・白鳥の人
- 「中東の 和平を願う 祈年祭」・・・寅次郎

令和八年四月からの行事予定

- 4/1・・・宮の森40号発行
- 4/3・・・防火祈願祭、秋葉神社、自治会主催
- 4/12・・・初宮神事、新旧総代歓送迎会、宮掃除
- 5/3・・・稲荷神社例祭神事
- 6/5・・・自治会・総代会二役会議
- 6/21・・・宮掃除(自治会と共同)
- 7/10・・・例祭打合せ会議、神楽幹部・総代三役
- 7/12・・・境内・秋葉神社草刈り清掃
- 7/19・・・初宮神事

御寄進・ご奉仕

- 一、焼却炉鉄扉寄付・・・寺田吉幸様
 - 一、お守り木札製作・・・川崎 弘様
- 心温かいご寄進、ご奉仕、誠に有難うございます。

御朱印受付

ご希望の方は0575(82)4387・瀬上宮司まで
 (文責・瀬木)